

情報かわら版

7



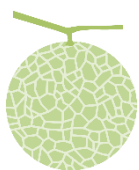
今月の表紙：メロン(新潟市西区)

今月のトピックス

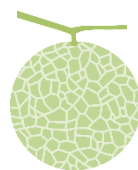
- ▷ メロンの輸出に取り組んでいます ～眞田農園～
- ▷ イタリアンライグラス栽培現地研修
- ▷ サッサカウンターを導入しました ～認定NPO法人UNE～
- ▷ 国庫帰属農地の管理情報収集業務を行っています
- ▷ 食料システム法に関する地方説明会開催及び参加者募集
- ▷ 食と農をつなぐアワード2025

電子版はこちら





メロンの輸出に取り組んでいます



～^{さなだ}眞田農園（新潟市西区）～

令和7年7月上旬、新潟市西区の「株式会社眞田農園」において、メロンの出荷作業の様子取材しました。

眞田農園では、令和5年度から「赤肉メロン（品種：クインシーメロン）」の輸出に取り組んでいます。輸出先の香港では、赤肉メロンの人気が高く、需要に応えるため、毎年、輸出量が増加しています。

眞田農園のハウスで栽培されたメロンは、船で香港へ輸送され、約2週間後に香港の店頭に並び販売されます。

船の都合で出荷日があらかじめ決められているため、生育の管理が難しく、今年の梅雨は暑かったため、完熟しておしりが割れてしまったメロンもありました。割れてしまうと売り物にならないため、その活用が課題となっています。



▲ メロンの生育状況を確認する眞田代表



▲ 出荷作業の様子



▲ おしりが割れたメロン



▲ 網目がきれいなメロン

収穫されたメロンは、専用の機械で産毛を取り除いた後、汚れをふき取り、フルーツキャップをかぶせて箱詰めされます。



～従業員の間曾さんにお聞きしました～



☆メロンが大好きで、メロン栽培が将来の夢でした。

農業大学校で技術・知識を学び就農しました。

☆メロン栽培で難しいところは、きれいな網目模様を作ることです。ハウス内の温度や風の管理にも気を付けています。

☆箱を開けた時に、網目模様がそろっていてきれいに見えるように選んで箱詰めしています。



▲ 就農4年目の曾さん

イタリアンライグラス栽培現地研修

6月24日、新発田地域農業振興協議会主催のイタリアンライグラス（牧草）栽培研修会が開催されました。これまで新発田地域では取り組まれてこなかった水田での栽培です。

新発田市の有限会社アシスト二十一さんの圃場（1ha）では、昨年10月にイタリアンライグラス（品種：エース）を播種し、今年5月に1番草を収穫しました。

（※写真は研修当日の2番草）

イタリアンライグラスを取り入れた目的は、輸入粗飼料価格が高止まりする中、飼料コストの低減や畜産業が盛んな新発田市管内での良質な自給粗飼料の確保が求められていたためです。今後は、自給粗飼料生産の優位性やイタリアンライグラスの水田での栽培について検証することとしています。

有限会社アシスト二十一（耕種農家）

新発田コントラクター（耕種農家3戸、畜産農家2戸）の一員として耕畜連携に取り組んでいます。

《代表の木村さんのコメント》

昨年までライ麦を栽培していましたが、収穫時期が4月で水稻の春作業と重なり課題となっていました。イタリアンライグラスは作業ピークが水稻と競合しないため、これが解消されました。

今回は、水持ちの悪い水田での栽培検証でしたが、イタリアンライグラスはそれほど水を必要としないので、水稻に比べ水管理の作業時間を削減できました。

今後、イタリアンライグラスの作付けを増やしたいです。



現地研修の様子

水田での栽培上のメリット

（新発田地域振興局）

- ☆牛の嗜好性が良く、適期刈りした良質サイレージは栄養価も高い。
- ☆主要作業の時期が、主食用米や他飼料用作物と競合しない。
- ☆雑草対策、虫害対策の必要がない。
- ☆収入試算では、稲WCSより劣るものの播種、収穫、防除、水管理など作業量の削減で十分ペイできる。

イタリアンライグラスって？

- ▽一年性のイネ科牧草
- ▽飼料として消化性や嗜好性に優れている。
- ▽耐寒、耐雪、耐暑性に優れ、冠さび病やいもち病などへの抵抗性を有する品種もある。



作業機械の一部を紹介



パワーハロー（碎土）



ディスクモア（刈取り）



ジャイロテッパ（反転）



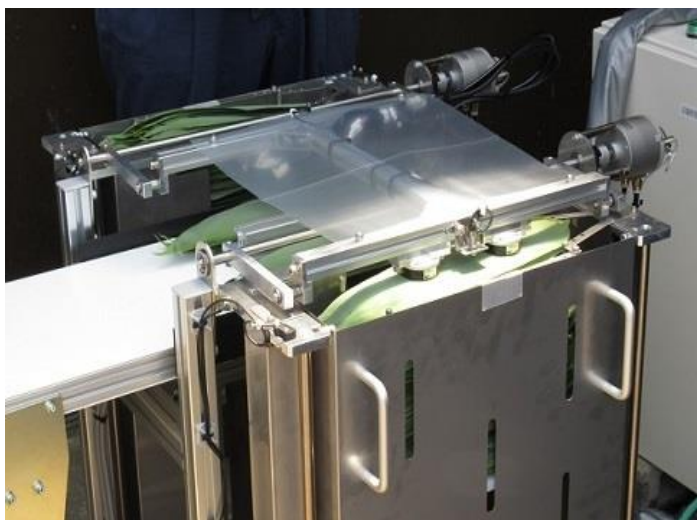
ツインレーキ（集草）

サッサカウンター（笹の葉枚数 数え器械）を導入しました！ 【認定NPO法人UNE（長岡市）】

令和7年6月20日にUNEの特注器械「サッサカウンター」のお披露目式に参加しました。

UNEではこれまで、地域で収穫した笹の葉を笹団子の包材などの原料として出荷していましたが、笹を採取する人達の高齢化、リタイアで採取者の数が激減する一方で、笹取扱業者からの注文が殺到しており、人手不足のため、選別等が追い付かない状況でした。

代表理事の家老さんは、「UNEスタッフの一員としてサッサカウンターが活躍してくれる事を楽しみにしています。」と期待を寄せていました。



(認定NPO法人UNE)
<https://www.une-aze.com/>



県拠点では国庫帰属農地の管理情報収集業務を行っています

相続土地国庫帰属法に基づいて国庫帰属した農地は農林水産省が直接管理・処分を行っています。

新潟県拠点では、県内の国庫帰属した農地の現地確認を実施し、雑草の繁茂状況や不法投棄がないかなど、農地の適正な管理のための情報収集業務を行っています。



▲ 国庫帰属農地



▲ 境界杭を確認する県拠点職員



▲ 農地の管理状況を記録する
県拠点職員

農林水産省HP

農林水産省が平成22年度以降に取得した国有農地について（北陸農政局管内）

https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/zaisan/241010_13.html



「高校生とつながる！つなげる！」

第3回ジーニアス農業遺産ふーどコンテスト」開催

農林水産省は、農業遺産地域の魅力を広く発信し、地域活性化を図る取組の一環として、農業遺産地域の高校生を対象に、当該地域の産品を使った食品又は料理のアイデアを募集します。

～農業遺産地域の食材を使った食品・料理のアイデアで農業遺産を盛り上げよう！～

募集内容

2地域以上の農業遺産地域の産品と一般の材料を自由に組み合わせた、食品又は料理のアイデアを募集します。

応募対象者

世界農業遺産及び日本農業遺産認定地域が所属する県に所在する高等学校（高等専門学校等含む）に在学中の生徒

応募期間

令和7年7月1日（火）～9月30日（火）

農林水産省HPプレスリリース

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kantai/250701.html>



佐渡総合高等学校が

2年連続で受賞しています！

第1回「あったらいいな賞」

受賞作品名「ヘルシー美味しい野菜クッキー」

佐渡市のさどっ粉
埼玉県武蔵野地域の川越いも
山形県最上川流域の山形青菜を使用



第2回「ゴールド賞」（最優秀賞）



受賞作品名「日本中がフォー！！！！」

フォーは佐渡産米粉
だしには石川県能登地域のいしりと
大分県国東半島宇佐地域の乾しいたけを使用



北陸農政局 <食育イベント情報>

～食育に関するイベント情報を北陸農政局ホームページに掲載します～

「食育ネットほくりく会員」等からの食育に関するイベント情報を、直近2カ月を目安に開催県別に北陸農政局ホームページに掲載します。情報は毎月上旬頃に更新します。

お申込みされる方は、各イベントの締切日にご注意ください。

なお、イベントについては、諸般の事情により中止となる場合がございますので、詳細については各イベントお問合せ先までお願いします。



北陸農政局ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/safe/shokuiku/event.html>



「食育ネットほくりく」って？

北陸農政局では、各方面で食育に取り組んでいる様々な関係者の方々との連携協力を通じて、北陸地域の食育を推進していくことを目的として、平成18年7月に食育推進のためのネットワーク「食育ネットほくりく」を設立しました。

「食育ネットほくりく」は、食育に関心のある団体及び個人なら、どなたでも加入できます。

食料システム法に関する地方説明会の開催及び参加者の募集について（北陸ブロック）

令和7年6月11日、食品等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律及び卸売市場法の一部を改正する法律が成立し、同月18日に公布されました。

これにより、食品等の持続的な供給を実現するための食品等事業者による事業活動の促進及び食品等の取引の適正化に関する法律（食料システム法）に基づき、合理的な費用を考慮した価格形成と食品産業の持続的な発展に向けた施策を一体的に推進し、食料の持続的な供給ができる食料システムを確立します。

今般、食料システム法について、生産・加工・流通・販売といった食料システムに関わる皆様に御理解いただくとともに、今後の具体的な施策を検討するにあたり、皆様の御意見をお伺いするため、地方説明会（北陸ブロック）を開催いたします。

1. 議事

- （1）食料システム法についての説明
 - ・合理的な費用を考慮した価格形成
 - ・食品産業の持続的な発展（計画認定制度）
- （2）その他施策についての説明

北陸農政局HPプレスリリース

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/keiei/250714.html>



2. 開催日時及び場所（北陸ブロック）

日時：令和7年8月5日（火曜日）13時30分～16時00分

会場：金沢広坂合同庁舎1階共用大会議室
（金沢市広坂2丁目2番地60号）

開催形式：対面及びオンライン（Microsoft Teams）

3. 定員

対面100名（先着順）、オンライン500名

4. 参加申込み方法

参加を希望される方は、参加申込フォームからお申込みください。
Webでの参加を希望される場合は、お申込み時にWeb参加として登録ください。Web参加で登録いただいた方には、説明会前日までに、各種情報（URL等）をメールにてお送りします。

<参加申込フォーム>



<https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=6DkBnJJi0qvMEVxNh0TRJflcT3etDdKtuVtgKjlr3IU MFpKWlhWRDZMRkXTUFIrDNSUkZXT0RWSi4u&route=shorturl>

参加申込み締切
7月31日（木曜日）
12時00分

令和6年度 農林水産関係4白書を公表しました

令和6年度 食料・農業・農村白書
（令和7年5月30日公表）

https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r6/index.html



令和6年度 食育白書
（令和7年6月10日公表）

https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/r6_index.html



令和6年度 森林・林業白書
（令和7年6月3日公表）

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/r6hakusyo/index.html>



令和6年度 水産白書
（令和7年6月6日公表）

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/index.html>



【募集開始！】食と農の連携・協働を促進する新アワードを創設

～食と農をつなぐ優良な取組を行う企業・団体等を表彰します！～

農林水産省は、「ニッポンフードシフト」事業の一環として、食料システムの関係者・関係団体間の相互理解と連携・協働を促すため、優良な取組を行う企業・団体等を表彰する新たな表彰制度（大臣賞等）「食と農をつなぐアワード」の公募を2025年7月1日（火曜日）から開始します。



食と農をつなぐアワード 2025

～持続可能な食料システムを支える優れた取組を表彰します～



食と農をつなぐアワードとは？

令和6年改正の「食料・農業・農村基本法」等を踏まえ、生産者・食品事業者・消費者などが連携する「食料システム」の理解促進と、持続可能な食料供給に向けた主体的な取組を応援するための表彰制度です。

1 食料の安定供給

穀物等の民間備蓄、国産消費の拡大、安定的な輸入等にかかる取り組みをおこなうことにより、我が国の食料安全保障の確保に功績のあった企業・団体等

2 食品アクセスの確保

物理的アクセスや経済的アクセス等に係る取組を行うことにより、食品アクセスの確保に功績のあった企業・団体等

3 持続的食料システムの確立

合理的価格の形成、人権・環境配慮調達・栄養改善に功績のあった企業・団体等

4 スマート農業技術等の開発・普及

農業者・産地等によるスマート農業技術及びその効果を高める新たな生産方式の開発・普及の取組等

農林水産省HP
プレスリリース



<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/250701.html>

公募期間

7月1日（火）
～ 8月12日（火）

応募ページ



https://nippon-food-shift.maff.go.jp/2025/aw_connect.html

応募概要 2025年度 食と農をつなぐアワード

○ 公募期間

7月1日（火）～8月12日（火） 17:00（必着）

○ 応募ページ

QRコードを読み取って、応募ページにてお申込みください。
https://nippon-food-shift.maff.go.jp/2025/aw_connect.html

○ 表彰の種類

- ・農林水産大臣賞（各部門1点以内）
- ・大臣官房長賞 ・消費・安全局長賞
- ・輸出・国際局長賞 ・大臣官房技術総括審議官賞

○ 応募資格

- ・ニッポンフードシフトの推進パートナーに登録していること

○ 審査

一次審査：8月29日（金）／二次審査：10月中旬

○ 結果発表

2025年10月中旬予定（全応募者に結果を通知）



応募ページへ

8月12日
（火曜日）
応募締切



応募のメリット：活動認定証の交付

左記の賞を受賞されなかった応募者のうち、応募者が行う取組が、概ね1年以上継続して行われており、先進的な特徴を有している等の一定の基準を満たす場合、活動認定証を交付します。

同時募集中



NIPPON FOOD SHIFT 事務局
株式会社JTB 霞が関事業部

メールアドレス：nippon-food-shift01@bsec.jp
〒163-0431 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階

応募に関するお問い合わせ

ニッポンフードシフト事務局（JTB 霞が関事業部内）

TEL：03-6737-9261 MAIL：nippon-food-shift01@bsec.jp

ニッポンフードシフト 推進パートナーのご案内

ニッポンフードシフトの運動趣旨に共感いただける方であれば、企業、団体、個人問わず、ご登録いただけます。

推進パートナーの登録
はこちらから↓



ご登録いただくと、ロゴマークの無償利用、ニッポンフードシフト名義使用、公式サイト・公式noteで事例紹介、関連情報をタイムリーにお届けなどのメリットがございます。

令和7年度 未来につながる持続可能な農業推進コンクールについて

持続可能な農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善、普及等に取り組んでいる農業者、農業団体、流通・加工業者、教育機関等を表彰する「令和7年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール」を実施します。

自薦・他薦は問いません。皆様の応募をお待ちしております。

【表彰部門】 有機農業・環境保全型農業部門

【応募分野】 (1) 生産 (2) 加工・流通・消費 (3) 人材育成

応募できる方

有機農業を始めとする環境保全型農業の取組を通じて、地域づくりや有機農産物の生産・消費の拡大、環境負荷低減や生物多様性保全など環境の保全等に顕著な成果を上げている農業者、農業団体、流通・加工業者、教育機関等（地方公共団体及び地方公共団体が中心となり構成する協議会等の団体は表彰の対象外）。

表彰の内容

農林水産大臣賞

1点以内

農産局長賞・畜産局長賞

合わせて3点以内

過去の受賞者の取組の詳細はこちら

有機農業・環境保全型農業部門▶

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/known.html>



応募期間

令和7年6月6日（金）～9月5日（金）

※農林水産省に直接提出の場合は9月19日（金）まで

農林水産省ホームページ

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/250606.html



事業系食品ロス量（2023年推計値）を公表

～食品ロス量は464万トン、事業系では231万トンまで削減～

農林水産省は、食品ロス削減の取組を一層促進するために、食品関連事業者から発生する事業系食品ロス量の推計を行い、消費者庁、環境省とともに公表しています。

2023年度の食品ロス量は464万トン（前年度比▲8万トン）、このうち事業系食品ロス量は231万トン（前年度比▲5万トン）となり、2000年度比で**58パーセント削減**しました。

※農林水産省は2025年3月に公表した「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」（食品リサイクル法）の基本方針において、食品関連事業者から発生する事業系食品ロスを2000年度比で2030年度までに60パーセント削減させる目標を新たに設定しました。



食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

農林水産省HPプレスリリース

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/250627.html>



令和7年度 農林水産省「こども霞が関見学デー」

農林水産省 こども霞が関見学デー

農林水産省では、令和7年度「こども霞が関見学デー」（文部科学省が主催）の一環として、会場プログラムを実施します！（自由参加・参加無料）

さらに、食や農林水産業について学べる夏の特設ウェブサイト「マフ塾～目指せ！農林水産博士！～」をオープンします！

農林水産省HPプレスリリース <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/koho/250627.html>



～ 会場プログラム ～

遊んで、体験して、食や農林水産業を学ぶことができる、小・中学生向けのイベントです。どなたでも自由にご参加いただけます。（一部のプログラムは事前の申し込みが必要です。）

開催日時： **令和7年8月6日（水）、7日（木）**
10時00分から17時00分まで（受付は16時00分まで）
会 場： 農林水産省（東京都千代田区霞が関1-2-1）
受付場所： 農林水産省本館正面、北別館の各玄関
持ち物： 筆記用具・保険証（体調不良時、診療する際に必要）

～ オンラインプログラム ～

いつでもどこでも、遊んで学べる、自由研究にも役立つ全11種類のオンラインコンテンツを見てみよう！

マフ塾とは

夏休みに食や農林水産業について学べる特設ウェブサイトです。
小学生から大人まで楽しめる動画やクイズなど、全国どこからでもアクセスできる、農・林・水のコンテンツをご用意しております。自由研究のネタ探しにもぴったりです。

開催日時

令和7年6月27日（金）から8月31日（日）まで



農林水産省ホームページ https://www.maff.go.jp/j/kids/kodomo_kasumi/2025/index.html



～ 調査員が田畑へ出向き実測調査を行っています ～

農林水産省では、農業の生産基盤である耕地と農作物の作付け及び生産に関する実態を明らかにするため作物統計調査を実施しています。

調査は北陸農政局が委嘱した「専門調査員、統計調査員」がビブス（写真）着用、身分証明書を携帯し、調査対象となった田、畑の現況確認、農作物の作付状況や作柄の把握を行うため11月頃まで実測調査を行っています。

調査中は、近くの皆様に出来るだけお声がけするとともに、調査へのお問い合わせにも対応いたします。

なお、ご不明な点等ありましたらご連絡ください。



【お問い合わせ先】

北陸農政局 新潟県拠点 統計担当

TEL 025-224-1441（直通）

～ 編集後記 ～

眞田農園の従業員さんが休憩時間に食されていた「おしりが割れたメロン」の糖度は14度あり、糖度として十分であると代表から説明を受けました。

規格外品のため市場には流通せず、誰にも食されずに廃棄するメロンもあるとのことで、「もったいないな…有効活用できないかな…」と感じました。



お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

